

りらく

別冊
りらく

川崎町編

秋深し兵どもが城の跡

つちもの

川崎町で

歴史ロマンにひたる

戦国時代から江戸時代へ

時代と共に役割も位置づけも

移り変わっていった山城。

川崎町内にはいくつもの城跡が残され

どれもが桁外れのスケールだ。

深まる秋、厳かな佇まいはさらにアップデート。

兵どもが駆け巡った往時に想いを馳せて

歴史探訪に出かけよう。



川崎町教育委員会 2018年12月発行
(平成18年宮城県教育委員会文化財調査報告書参照)



当時大勢の人々が暮らしていたことを実感できる井戸跡



丘陵を下った先に支倉家の菩提寺・圓福寺がある
川崎町大字支倉字鶴山

虎口があり、二段のコの字の土塁が築かれている。同じように横堀が巡る二の丸も、一部に土塁が三の丸はやや荒れているものの、東側に横堀が見られ、南は堀切により遮断されている。不思議なことに、攻め入る敵を

イメージするだけでも武者震いが出てくる。それくらい臨場感たっぷり。荘厳な雰囲気の中、戦国武将が郷を愛し守るために、知恵を絞った戦術が浮かび上がってくるからだろうか。



本丸跡には大銀杏がそびえる。根元に小さな赤い祠が鎮座。これが「八幡神社」だ



所々に倒木だけでなく、倒木予備軍の樹木も。散策する際はくれぐれも足元に気を付けて

城跡の理解が深まる、知ってタメになる用語一覧

- 土塁**…土を高く土手状に盛った防壁
- 曲輪**／郭…生活上、軍事上などの理由で平坦化された地。郭は「くるわ」とも読む
- 虎口**…曲輪の出入口
- 枳形**…土塁や石塁などで方形に囲んだ虎口。防御を重視した出入口で、塁線の内側に設置する「内枳形」、外側に設置する「外枳形」がある
- 空堀**…水堀(濠)に対して水のない堀。現存する堀が浅く見えるのは、堀底に廃城期またはそれ以降の土が堆積しているため
- 要害**…地勢が険しく、守りやすく、攻めにくい所
- 搦め手**…城の裏
- 横堀**…曲輪を取り巻くように、等高線に沿って造られた堀
- 堀切**…敵の侵入を防ぐため尾根を垂直に切り取って造られる空堀。曲輪同士の区切りや城の境を示す目的で造られることもあった

本丸は広く、西に土塁が築かれ、空堀がぐるりと取り囲む。中央はうっそうと杉木立が生い茂る。明治以降、本丸は長らく畑として利用されていた。やがて持ち主が畑作をやめられ、杉の木を植林。現在の光景に生まれ変わった。びっしりと城跡を埋め尽くし、整然と並ぶ様は杉の回廊のようだ。本丸の北東側にも注目。二重の空堀となっている。ここに通じ



川崎町の歴史ある山城巡り。幕開けは、支倉常長ゆかりの上楯城跡から。支倉家の菩提寺・圓福寺のすぐ背後、丘陵に広がる城跡は現在公園として整備されている。とはいえ一歩足を踏み入れると、一帯は時間が止まったかのよう。まるで空気が違う。四方に巡らされた土塁、切り立った巨大な空堀が圧巻だ。上楯城跡を起点に、いざ出発！

空堀に攻め入った敵は、頭上の土塁から狙い撃ちされるように設計されている。どんなに勇ましくても、これじゃひとたまりもない

上楯城跡

常長少年がすくすく育った
情景に想いを馳せる

上楯城跡は東西400m、南北600mのスケールを誇る大型の連郭式山城跡。連郭式とは本丸・二の丸・三の丸を直線的に並べた形式。最高所に本丸、西に二の丸、南に三の丸のほか、曲輪、馬場跡からなる。比高は約70m。北側は足がすくむほどの断崖だ。東南面は数段のそれぞれ平場で築かれている。
築城されたのは1545(天文14)年頃。城主・支倉常正の禄高は当時1200石。伊達藩の中級武将だった。1571(元亀2)年、米沢の伊達家藩士・山口常成の子に生まれた常長は、7歳で伯父・支倉時正の養子に。そのため常長は養祖父・常正が築いた上楯城で、青年期まで過ごすことになる。

ここが幼少期の常長が目にした光景を想像してみよう。さぞかし隠れん坊のフィールドとしてうつつけだったに違いない。立ち止まって、じっと辺りを眺めていると、元氣いっぱい空堀を駆け回る常長少年が、今にも現れてきそうじゃないか。
時を超えて息づく
サムライ魂に武者震い
上楯城跡までは圓福寺の駐車場から登るほか、山頂付近に駐車場が整備されている(写真右)。



上楯城跡の駐車場。トイレあり



弱め手より向かって右が本丸、左が二の丸だった。現在はそれぞれ城山公園、川崎小学校になっている

町名由来の地は、町民憩いの場に

まえかわ

前川城跡

(川崎城・川崎要害)

役場近くの川崎小学校に小さな丘(館山)がある。かつて、ここに砂金氏の居城「前川城」があった。砂金氏十一代・砂金右兵衛常房(実常)が1608(慶長13)年から2年ほど費やして築城。1702(元禄15)年頃まで、百年近く居城した。砂金氏が途絶した後、伊達氏は最上境の要衝として、ここに伊達一門(川崎伊達氏)を配し、笹谷街道沿いの備えに万全を期した。仙台藩の要害は支城の役割を果た

町裏に連なる丘陵の西端を利用した川崎要害。東を空堀によって切断し、周囲を土塁で囲んでいる。内部も土塁で二分。東半分の一部に家中屋敷を置き、西半分が館主の居所に。土塁の上には木柵が柴垣を結び、南麓に大手門を開いていた



し、21城あったうちのひとつが、ここ。川崎町の町名は川崎城(川崎要害)に由来する。ちなみに要害は城だけでなく、必ず町場・宿駅などの城下町を持つ。地域経済の中心として機能した。現在城山公園となっている場所が本丸、川崎小学校が二の丸だった。東南部に大手門口、北面に搦め手も。東西100間、南北40間のエリアには土塁や空堀も一部残っている。城跡周辺の町割りも、ほぼ当時のままだ。ところで、町内には前川城とは別に前川本城がある。川崎要害の「前身」という意味で中ノ内城がそう呼ばれるようになった。



城山公園を下った側面の石垣は昭和初期に造られたものだそう

Column

車窓一推しの絶景 北川の川床

川遊びや沢遊びが楽しめる北川河川公園。公園の北側ではなく西側には、丸々と削られた巨岩がごろごろ。世界遺産に登録申請したくなるほど。



長い歳月をかけて、こんな光景に。自然が生み出した造形美にびっくり

春の城山公園は、桜が満開に咲き誇る憩いの場に。穏やかな時間を堪能して

川崎町大字前川字館山5
TEL.0224-84-2117 (川崎町地域振興課)
TEL.0224-84-6681 (川崎町観光協会)



立寄りスポット



古民家をリノベーションした店内で、独自に栽培する「和紅茶かわさき」をはじめ、味や香りが違うお茶が楽しめる。写真の「白玉クリームあんみつ」(単品650円、+お茶380円)もおすすめ

川崎町大字前川字裏丁81-1
TEL.090-8053-1223
11:00~17:00
日~水曜定休

川崎町で140年前に栽培されてきた「川崎茶」を復活させようと始められた日本茶カフェ。

茶舗 福ノ葉堂



おすすめは熱々の岩塩プレートで焼く「岩塩焼き定食」(1,100円)。香ばしい匂いが食欲をそそる。レモンと柚子胡椒を添えて味わうとさらに白米が進む

川崎町大字前川字裏丁57-10
TEL.0224-86-4892
11:00~15:00
日・月曜、祝日定休 ※営業時間・定休日は変わる場合があります。

豚の健康と快適な育成にとことんこだわり、豚本来の美味しさを引き出した宮城蔵主のブランド豚「JAPANNX」が味わえる。

レストラン・カフェ kokage(こかげ)

手づくりカレーと自家焙煎コーヒーが自慢の「カフェ・マル」で一番人気なのが、これでもか!ってくらい、ぶ厚いホットケーキ。煎りたてで香り高いコーヒーとどうぞ。平日限定日替わりランチや、焼きカレーもおすすめだ。

川崎町支倉塩沢9 10:00~18:00(LO17:30) / 土曜21:00まで営業 (LO20:00)
TEL.0224-51-9131 火曜定休 ※火曜が祝日の場合は翌日休



「イーレ」はスペイン語で「行こう」という意味。カフェ・マルでは、自家焙煎のコーヒーで風味の違いを楽しむ。「温野菜のセカレー」(1,000円)。

イーレ!はせくら王国 (旧支倉小学校)



支倉常長の墓と伝えられる宝篋印塔。若かりし日の常長が目にしたであろう平野を一望できる場所に立つ

常長伝説で知られる 支倉家の菩提寺

圓福寺

川崎町大字支倉字宿154
TEL.0224-86-2407



通常非公開のマリア観音像を、りらく読者のために特別公開

開創は平安時代後期。明治初期、真言宗智山派の直末寺として現在地に中興開山した。塑像の延命地藏菩薩が本尊。身の丈3尺(約90cm)あり、平安時代の作と伝えられる。脇仏にマリア観音像が置かれ、仏像に模していることから隠れキリシタンに由来するものとされる。ご存じの通り、支倉常長は藩主・伊達政宗の命を受けて、慶長遣欧使節としてイスパニア(スペイン)へ。帰国後は支倉の地に安住し、52年の短くも、波乱万丈の生涯を閉じたといわれる。圓福寺本堂裏手の斜面には支倉常長の墓と伝えられる宝篋印塔が残る。ほかにも鐘印の付いた墓跡も3基あり



鐘印の付いた墓は、果たしてイスパニアへ同行した人物のものなのか? 想像力をかき立てられる

り、常長に同行した人物の墓と考えられている。五輪塔はいつ建てられたか定かではない。苔むして、風化により文字が磨滅し、ほとんど読解不能に。それによりかえってミステリアスな度合いがアップしている。

Column

県内外にあるある!? 支倉常長の墓

川崎町の圓福寺をはじめ、常長の墓といわれる場所はあちこちに点在する。宮城県だけでなく岩手県にもあり、真相は謎に包まれたまま。なぜこんなに多くの墓が? しかも広範囲に散らばって。不思議なのは常長の没年。圓福寺の碑には「51歳没」とあるのに対して、大郷町メモリアルパークの碑は「84歳没」。慶長遣欧使節のミッションを志半ばで終えて帰国した常長は、本当に翌年亡くなったのか、それとも……。

立寄りスポット

パノラマ絶景を独り占め！
天下を取った気分！

小野城跡

(牛ヶ館)



川崎町小野字笹平山

天高く、ドローンで小野城跡を撮影

小野城跡のつべんからは、釜房湖から国営みちのく杜の湖畔公園、蔵王連峰までを一望できる。目の前に絶景が広がり、雄大なパノラマに息をのむ。天下を取った殿様気分にあふれること請け合いだ。

街道を見下ろす巨大な山城跡は天正年間、笹平山に小野雅楽之允が築城したもの。1576(天正4)年、伊達輝宗と相馬盛胤との間で行われた伊具郡丸森での戦いに近郷の砂金・支倉両氏とともに参戦。1588(同16)年の伊達政宗の大崎攻めでは、支倉氏とともに出陣している。

小野城は東西250m、南北180m。東郭と西郭に大きく二分される。それぞれが周囲に曲輪群と土塁、空堀などの防御設備を持ち、東の南側に大手、北中央付近に搦め手の虎口、また南山腹に二の丸があった。主郭の西から北にかけて土塁が巡り、北下には空堀から続く通路が搦め手虎口まで続く。



西側に位置する郭には大きな土塁と空堀が。V字形に掘られた薬研堀の傾斜はキツく、深さが6mもある

Column

疫病から人々を守る

若木神社

新型コロナウイルスより遡ること200年。江戸時代から昭和初期にかけて疱瘡(天然痘)、麻疹、コレラなどがたびたび大流行し、多くの命が失われた。川崎町内には疫病から人々を守るため、疫病退散の「牛頭(ごず)天王」、疱瘡神の「若木山」関連の石碑などを設置。小野城跡の熊野神社隣にひっそり佇む若木神社にも、当時の様子が偲ばれる。小野城跡散策がてら、ちょっと寄り道して参拝を。

壮大な「土の芸術」に魅せられる

前川本城

(中ノ内城跡)

- 1 3つの土塁上から、三段の射撃が行えるよう考えられている
- 2 西に広がる三重土塁は180mに及び。各土塁の間にある空堀との落差は最大15m。城の内側から城外に向かって連なる様は、波のうねりを思わせる。外に向かうに従い、土塁と堀は低くなっていく
- 3 東西130m、南北100mほどの長方形の平場が本丸だった。東南西の三面に土塁、その外側に空堀を築き、二重の防御が施されている
- 4 長年にわたり降り積もった落ち葉の絨毯で、城址内はフカフカだ

土塁が三重に連なり、美しいウェーブを描く。内枳形をふたつ重ね付けた技巧的な虎口と併せて「土の芸術」と呼ばれる前川本城だ。ここは笹谷街道と羽前街道に接する交通の要衝。山形最上氏、米沢上杉氏と対し、伊達氏にとって重要な防衛拠点だった。前九年の役(1056)の際、安倍貞任が4千の精鋭と川崎柵に



川崎町大字前川字本城



よって戦い、この柵が地名を取って「中ノ内城」と呼ばれた。戦国末期の天正年間1573年頃、砂金氏八代常久が築城。1609年頃、十一代常房が前川城に移転するまで居城した。居城期間は36年間と短く、後廃城となった中ノ内城は「本城」と呼ばれるようになり、周辺の地名となった。

東西南北ともに約200mの中世連郭式山城で、本丸、二の丸と大規模な土塁、空堀があり、馬出曲輪を備える。砂金氏(1500石ほど)の動員人数に對して曲輪が広すぎるため、関ヶ原の頃、上杉対策に最上への増援を考え、外曲輪を増設したのではないかと考えられている。

立寄りスポット

Ono de cafe (オノデカフェ)
支倉常長にちなむブレンドや本格シングルオリジンに加え、白砂糖やマーガリンを使わない焼き菓子や濃厚ツネナガシエイクも楽しめる。



川崎町産の卵を使用した「背徳感のチーズ&ハンバーグエッグサンド」(1,380円)と「ツネナガシエイク」(850円)

川崎町大字小野字湯田36-1
10:00~17:00(LO.16:30)
月曜定休、不定休

生駒農場

杜の湖畔公園そばの八百屋&カフェ。濃厚ソフトに旬の果実を盛った名物「八百屋の本気パフェ」は絶品で、リピーター続出。



「八百屋の本気パフェ」(1,200円)はボリューム満点、お手ごろ価格で大人気。旬のフルーツを惜しみなく、どっさり使っている(写真は6月に提供された「さくらんぼパフェ」1,500円)

川崎町大字小野字弁天29-1
TEL.0224-87-6623
9:00~17:00(テイクアウトは10:00~16:00)
※火・水曜はテイクアウトのみ休み ※冬期(12月中旬~2月末ごろ)休業不定休

立寄りスポット

森のピザ工房ルヴォワール

食材と手作りにこだわったピザ工房。蔵王山麓の美味しい水で練り上げ、低温長時間発酵させたピザ生地は小麦の香ばしさが抜群。



人気ナンバーワンの「蔵王のお釜ピザ」(1,857円)は蔵王で採れた良質な牛乳で作ったチーズをたっぷり乗せて、ふわふわもちもち。クセになる美味しさだ

川崎町大字前川字松葉森山6-5
TEL.0224-86-4678
平日10:00~16:00(LO15:30)、土・日・祝日10:00~17:00(LO16:30)
※11月~3月(冬期)は平日11:00~15:00(LO14:30)、土・日・祝日11:00~16:00(LO15:30) ※生地がなくなり次第終了
火曜定休 ※祝日の場合は営業

手打ちそば 川音亭

一般的に期間限定で提供される寒ざらしそばを、川音亭では通年食べられる。自家栽培された野菜の天ぷらと一緒に召し上がれ。



コシがあり、そば本来の甘みが味わえる寒ざらしざるそば(1,200円)。秋のイチオシが、温かいきのこ汁(500円)とのセット。旬の風味たっぷり、奥深い味わいにほっこり

川崎町大字前川字六方山29-1
TEL.0224-87-2903
11:00~16:00 ※そばがなくなり次第終了不定休

青根温泉は1528(享禄元年)に発見され、1546(天文15)年の開湯以来、500年近い歴史を誇る。仙台平野から太平洋までを望む標高約800mに佇み、眺望絶佳。藩政時代に伊達家の保養所として利用された歴史も。由緒ある山間のいで湯は、品格と素朴さが共存。懐かしさに和み、優しく癒される。

湯元 不忘閣

かつて伊達家の御殿湯(別荘)だった湯元 不忘閣。「この地忘れまじ」という政宗の想いから名付けられたという。

後年与謝野鉄幹・晶子夫妻、田山花袋、芥川龍之介、古賀政男、山本周五郎、吉川英治、川端康成など多くの文人墨客にも愛され、文化活動の拠点としても名高い。土蔵内に設えられた蔵湯をはじめ、木造建築と石風呂が美しく調和する大湯など、湯巡りを楽しむことができる。



右/「青根御殿」には伊達家からの拝領品、当家に伝わる古文書、宿泊した作家らの手紙や作品等が展示され、見応えがある(宿泊者限定)

下/本館・離れ・御殿棟・文庫蔵・座敷蔵・穀蔵・門の7件が国登録有形文化財となっている



川崎町青根温泉1-1
TEL.0224-87-2011

若返りの湯で、のんびり、ゆったり寛ぐ

岡崎旅館

1906(明治39)年の大火により青根温泉街の建物はことごとく焼失したが、明治中期に建てられた岡崎旅館の南棟は火災を免れ、大火前の様子を今に伝える。昭和初期に建てられた北棟も明治から昭和にかけての旅館建築の風情たっぷり。南棟ともども国登録有形文化財になっている。

天然温泉掛け流しで湯量も豊富。肌がスベスベになることから「若返りの湯」との異名もある。



ゆったり湯浴みが堪能できる大浴場、2つの貸切風呂で、自慢のいで湯を存分に楽しめる。日帰り入浴は500円、貸切は1,000円



川崎町青根温泉8-5
TEL.0224-87-2016

「りらくの記事を見た」と伝え
ると、明治・昭和の湯治棟を
無料で見学できる(通常500円)

Book



川崎町の城跡について、もっと詳しく知りたい、深掘りしたい方におすすめ

令和5年度 川崎町の文化財 第13集 城館
川崎町教育委員会発行
※お買い求めは川崎町公民館 (TEL.0224-84-2311)

川崎町MAP

